

## 掲載統計について

## 1. 減少した日本の対外直接投資残高

2002 年末現在における日本の対外直接投資残高は 36 兆 4,776 億円だった。前年に比べ 3 兆 775 億円の減少である。国内別訳をみると米国の 2 兆 2,344 億円、英国の 1 兆 2,253 億円の減少が大きい。

この主な要因は次の点である。日本企業が保有する海外子会社の株式の簿価の切り下げが情報通信、電機、不動産等の分野で目立つ。海外子会社の清算・減資がゴム、電機、建設等の分野で目立つ。為替円高化による円ベースの評価損。

90 年代後半のクロスボーダー M&A ブームで世界的に直接投資額が膨らんだ。しかし、その後の簿価の切り下げや子会社の売却などにより米国等でも投資残高が減少している。

なお、2002 年末における日本の対内直接投資残高は 9 兆 3,693 億円で、前年に比べ 2 兆 7,372 億円の増加である。日本での事業拡大を図る外資系企業の増加、事業・財務面の再構築の一環として外国資本を受け入れる日本企業の増加などが背景にある。

## 2. サービス貿易規模の国際比較

サービス貿易収支の受取額と支払額の合計（サービス貿易規模）を比較すると、2002 年は米国が 1 位、日本は 4 番目である。サービス貿易の規模が大きい主要国について、サービス貿易の商品貿易に対する割合をみると約 2 ~ 3 割の水準にある。

GDP に対する割合は、日本（4.4%）、米国（5.0%）、中国（6.1%）であるのに対し、英国（14.5%）、ドイツ（12.9%）、フランス（11.0%）である。対 GDP 比が 50% を超えるのは、アイルランド、シンガポールである。

## 3. 世界貿易ランキング（二国間）

「ITI 財別国際貿易マトリックス」（181 ページ参照）をもとに、貿易額が大きい順の表を作成すると、2002 年の場合は、米国の対カナダ輸入額、カナダの対米国輸入額、米国の対メキシコ輸入額の順で、NAFTA の域内取引が 1 ~ 3 位（前年同様）を占める。なお、米国の対中国輸入額は前年の 6 位から 4 位に、米国の対日本輸入額は前年の 4 位から 5 位になった。

（増田）